

項目	自己評価	中期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方策	学校運営協議会による評価	評価
確かな学力	S A B C	①大柘中学校の授業スタンダードの質の向上を図る。 ②主体的・対話的に学ぶ授業を創造することで、思考力・判断力・表現力を養う。 ③家庭・地域との協働により、家庭学習の充実と良い生活リズムの確立で学力向上を図る。	①「教科間連携事業」によるチーム会を定着させることで教職員自身が主体的・対話的に授業改善を図る体制を構築する。 ②授業改善のための校内研修を充実させ、「授業スタンダード」の質の向上を図る。教科間連携を図り、教科の枠を超えた授業力の向上を研究する。 ③家庭訪問や広報活動の充実により、家庭と連携して家庭学習の質と量を高めていく。 ◆学期ごとの振り返りを全教職員で行いPDCAを生かした教育実践を行う。	(1)アンケート結果(肯定的評価の割合)平均80%以上 ①授業後、「できた、わかった」が実感できる ②自分の考えを根拠に基づいて説明できる (2)教職員アンケート結果(強い肯定50%肯定的評価100%) ③生徒を惹きつけ、「授業スタンダード」に基づき、魅力ある授業がされている (3)家庭学習時間 ④90分以上(85%以上) ⑤30分未満(8%以内)	アンケート結果(肯定的評価割合) ①76% ②66% (2)③64%・90% チーム会を活用し授業スタンダードに基づいた授業展開ができていないが生徒にとっては達成感や説明力の向上を十分感じていない。 (3)④56%⑤10% ■結果は③のみ目標数値に届いていない。 ■時期によって結果にばらつきがある。継続して取り組む手立てが必要。学力結果は別添参照	(1)教科間連携における取組を持続可能な授業改善と位置付け、研究主任及びチーム長を中心に組織的に取り組む体制を確立する。 ①1週間に一度のチーム会 ②2週間に一度のチーム長会 ③1ヶ月に一度の研究職員会 (2)講師招聘による授業の質の向上 ①講師招聘及び研修による全校研(年3回) ②改善プラン訪問とチーム会の協働 ③教員の研修会への参加と共有 (3)個に応じた指導の充実 ★テーマ:学力向上	①学校は授業スタンダードに基づきわかる授業づくりに組織的に取り組み学力向上に努力している様子が伺える。授業参観の際、教職員は積極的にわかる授業に取り組んでいるが指導内容に少しばらつきがあるように感じた。これからも授業改善に積極的に取り組んで欲しい。 ②教職員の努力で魅力ある授業づくりができていてと思うが、教職員の頑張りに対し生徒のやる気が育ってないため、学力向上に繋がっていないように思う。生徒に学力や進学に対する緊張感がみられないように思う。 ③家庭学習は、小学校から習慣化するように小中の連携を図り取り組んで欲しい。家庭学習の成果が生かされ勉強が好きな生徒が増えることに期待したい。	S A B C
豊かな心	S A B C	①「保・小・中一貫教育」及び「地域との協働」により、物部がめざす子どもの姿である「郷土愛」「チャレンジ精神」「コミュニケーション力」を育む。 ②よりよい人間関係づくりを推進することで、規範意識及び自尊感情の高揚を図る。	①講師招聘校内研修により、教職員の教育力・指導力を高める。 ①保・小・中の子どもの交流や発表会の実施により、子ども同士の発達段階に応じた好ましい人間関係を構築する。 ②「総合的な学習の時間」の充実した取組を通じて、主体性を育む。 ◆物部がめざす子どもの姿における評価規準を意識したアクションプランを推進する。	アンケート結果(肯定的評価の割合) (1)郷土愛 ①自分のすんでいる地域が好き(100%) ②地域の方々に感謝している(100%) ③地域に貢献できる人間になりたい(100%) (2)チャレンジ精神(平均80%以上) ④目標を実現するために努力できる ⑤難しいことでも失敗を恐れず挑戦している ⑥将来の夢や目標を持っている (3)コミュニケーション力(平均80%以上) ⑦自分から進んで人に挨拶できる ⑧人の考えや発表を誠実に聞くことができる ⑨自分の考えや思いを伝えることができる	アンケート結果(肯定的評価割合) (1)郷土愛 ①97%②97%③93% (2)チャレンジ精神 ④79%⑤76%⑥83% (3)コミュニケーション力 ⑦72%⑧83%⑨79% ■達成しているのは⑥⑧のみであるが、ほぼ達成している。 (4)いじめの認知件数1件 解消済み 教職員も研修実施 (5)不登校(年間30日以上欠席)2名 現在登校できている。 (6)特別支援研修 2回実施 校内支援会6回実施	(1)「しつけ」と「勇気づけ」により資質・能力を育む。 ■しつける内容 ①「話す・聴く」態度・姿勢 ②場に応じた言葉遣い ③時間のマネジメント ■勇気づける内容 ①感謝の気持ちを伝える ②タイムリーな評価を与える (2)主体的な活動の場の設定 ○野市宿舎 ○湖水祭り ○運動会 ○物部っ子祭り等 (2)教職員研修の実施 ★テーマ:郷土愛・チャレンジ精神・コミュニケーション力・自尊感情	①物部っ子祭りでインタビューを受けた生徒の様子は、話す態度や姿勢もすばらしく地域で高い評価を得ることができた。教職員の指導力もすばらしいと思った。物部がめざす子どもの姿が育まれている。 ②どの子どもも進んで挨拶ができ地域の方の評価が高い。生徒は場に応じた言葉遣いはできている。しかし、教職員と生徒間のやりとりが先生に対して友達感覚の会話になっていることが気になる。	S A B C
健やかな体	S A B C	①運動習慣の定着、体力向上の意識化を図る。 ②体育的行事や体育の授業を通じて、主体的に運動を行う意欲を高める。 ③部活動の充実を図り、体力面や精神面の向上を図る。	①基本的な生活リズムの定着が運動能力や体力の向上、健康な体作りに繋がることが生徒、保護者にも啓発していく。 ②発達段階に応じ、適切な評価を行い、体力、運動能力を高める体育的行事や体育の授業を工夫する。 ③部会の実施や複数教員での効果的な指導、外部指導者の活用により、心身の成長に繋げる。 ◆部活動及び体育的行事の充実を図る	アンケート結果(肯定的評価の割合) (1)運動関係 ①体育の授業が好きである(90%) ②部活動が充実している(85%) (2)生活リズム ③スマートフォン・テレビ・ゲームの時間(平日 2時間未満60%以上) (3) ④毎日朝食を食べている(90%以上) ⑤基本的生活習慣の項目(5項目)(肯定的評価の割合)85%以上	アンケート結果(肯定的評価割合) (1)運動関係 ①93% ②90% (2)生活リズム ③47% (3)毎日朝食を食べている(90%以上)④100%⑤74% ■達成しているのは①②④ 運動面での満足度は高まっているが基本的生活習慣が課題である。 ○体育教員の複数配置 ○部活動の外部指導者の参画	(1)体育的行事及び部活動の充実 ■生徒の主体性を活かした取組 ①めあての明確な提示と振り返り ②ペア活動や交流を意識した活動 ③地域の指導者の参画を得る (2)保護者・生徒・教職員の協働による生活習慣の確立 ①PTAでの協議(6月) ②子育て講演会の実施(10月) ③人権教育参観日(1月) ④アンケートの実施及び活用 ★テーマ:チャレンジ精神・自尊感情・体力向上・生活習慣の確立	①運動習慣の定着は生活に意識して運動を取り入れることが大切である。評価項目の中に運動に関するアンケート調査や体力テストの結果等があれば評価の参考になるので入れて欲しい。 ②物部っ子生活リズム計画を家庭に啓発すること。子育て講演会は保護者の全員参加を呼びかけること。など子ども生活習慣について保護者の関心を高める手立てを強化していく必要がある。特に、スマートフォン・テレビ・ゲームの時間は、家庭でルールを決めて改善する。	S A B C
保護者地域との連携	S A B C	「大柘保・小・中学校運営協議会」及び「物部地域学校協働本部」の一体的な取り組みを継続的に行うことで持続可能な「地域とともにある学校づくり」を確立する。	①学校運営協議会の計画的開催(6回)と教職員との熟議の実施 ②物部地域学校協働本部の計画的開催(年3回)と各部会の活性化による協働の推進 ③物部地域ボランティア委員の確保と幅広く継続的な地域学校協働活動の推進 ◆「熟議・協働・マネジメント」を中心とした「チーム物部」により資質・能力を育む。	アンケート結果(肯定的評価の割合) (1)自尊感情 ①自分の良さがわかる(65%) ②人の役に立つ人間になりたい(90%) ③自分の判断や行動を信じれる(80%) (2)地域学校協働活動(保小中合計) ④年間350回以上 ⑤参画人数 延べ2500以上 (3)保護者との連携 ⑥日曜参観日の参加率90%以上 ⑦湖水祭り・運動会の参加率90%以上 ⑧愛校作業・道草刈り参加率80%以上	アンケート結果(肯定的評価割合) (1)自尊感情 ①52%②90%③69% (2)地域学校協働活動(保小中)12月末まで ④回数 301回 ⑤参画人数 延べ2170人 (3)保護者との連携 ⑥97%⑦97%⑧92% ■①③は未達成だが他の項目はほぼ達成した。保護者・地域の参画・協働で大きく地域学校協働活動は進んだ。	(1)学校・教職員・保護者のさらなる「協働の文化」を確立する。 ①大柘保・小・中学校運営協議会年6回「熟議」の充実 ○教職員・生徒・保護者・委員参画の熟議 ②物部地域学校協働本部年3回(総会)・各部会の実施 ○地域創生活動の充実「協働」 ③物部の教育を考える会年12回(月1回) ○マネジメント力の強化 ★テーマ:物部がめざす子どもの姿 次世代の学校・地域創生プラン	①学校が「地域とともにある学校づくり」の核となり、地域を巻き込み地域の活性化のために全教職員が熱心に取り組みよい結果がでていることに感謝している。 ②学校行事や地域活動に生徒が主体的に取り組む達成感を得られるよう、内容を選択し進めて欲しい。 ③課題:「学校も地域も元気にする」取り組みを地域とともに継続して行うためには、地域とともに運営協議会や協働本部・ボランティアに若い世代を勧誘し次世代へ繋ぐ取り組みが必要。	S A B C
保小中一貫教育	S A B C	保・小・中における教育実践を効果的に行うことで、学びを将来や生活につなげていくための持続可能な体制づくりを構築する。	①子どもたちの交流を図ることで自尊感情を高め、発達段階に応じた成長を育む。 ②保護者間の交流を図ることで、子どもの成長を育むためのPTA活動を活性化していく。 ③教職員の交流を図ることで、目標・ビジョンを共有し、アクションを共有し、成功体験を共有することで5つの力である「郷土愛・チャレンジ精神・コミュニケーション力・自尊感情・学力向上」を育む。 ◆カリキュラム・マネジメントの確立	(1)子どもの交流活動 ①6年生と中1との交流 ②小中合同運動会 ※アンケート(肯定的評価の割合) ■中学校生活が楽しみである(5・6年生アンケート 11月実施 90%以上) (2)PTAの交流 ③合同PTA役員会(年3回) ※組織や活性化の協議 (3)教職員の交流 ④合同研修会(年3回) ⑤合同連絡会(年2回) ◆学びに向かう力 肯定的評価90%以上	(1)子どもの交流活動 ①読み聞かせ・合同授業 ②小中合同運動会・マラソン大会・パレエ公演・物部っ子祭り ※アンケート(肯定的評価割合) ■中学校生活が楽しみ()% (2)PTAの交流 ③合同PTA役員会(年3回) ※6月・9月・10月 (3)教職員の交流 ④年3回(職員会2回)・研修1回 ⑤年2回(5月・2月) ◆学びに向かう力 肯定的評価86% ■保小中一貫教育の手立て不足	(1)子どもの交流 ①読み聞かせ・合同授業 ②保小中合同運動会・マラソン大会・パレエ公演・物部っ子祭り・保育実習・職場体験(保育園・小学校での) ③合同宿舎 旧大柘高校の活用 (2)PTAの交流 ①合同PTA役員会の充実 ○6月 ○9月 ○10月 ②保育園保護者会との連携 (3)教職員の交流 ①年3回合同職員会の実施 ②中教員による小授業への参画 ★テーマ:保・小・中一貫教育 カリキュラム・マネジメント	①小学校が全学年複式となる来年度は、保小中一貫教育の充実に向けて取り組むの推進をお願いしたい。 ・小中の教職員の交流(授業の交流) ・小中PTAの統合 ・保小中が一体となることができる取り組みを増やしていく	S A B C

※評価欄 評定S「優れている」、評定A「良い」、評定B「おおむね満足」、評定C「要改善」

※この評価書は、年度末に学校のホームページで公表